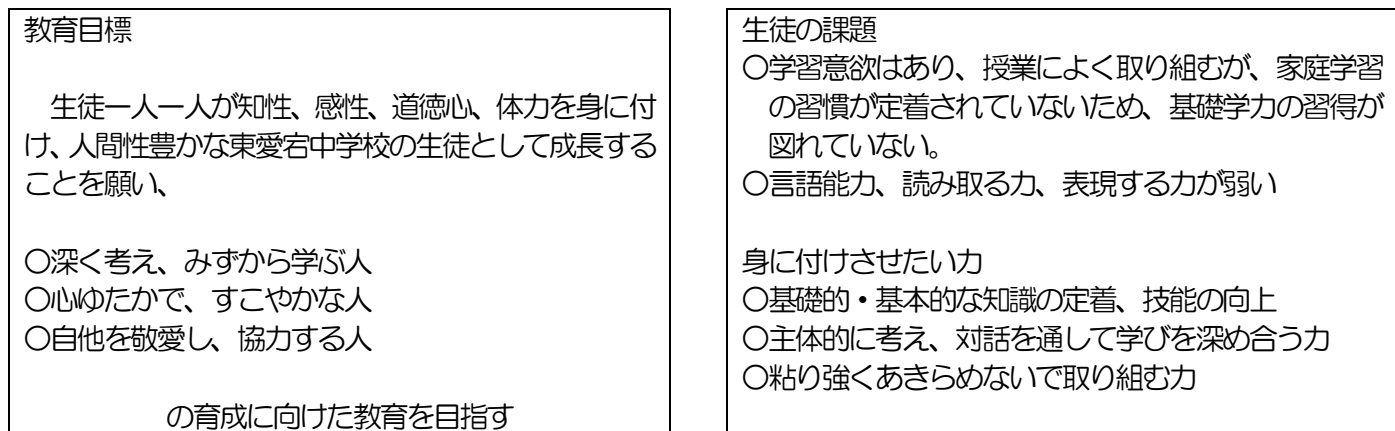


令和5年度 授業改善推進プラン（全体計画）



本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	評価活動の工夫	指導と評価の一体化	指導内容 指導方法の工夫	校内における 研究や研修の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○「教育計画」に従い教育課程を進行 ○学期ごとの教育課程の進行調査の実施と改善策の実施 ○行事運営の改善と体験学習の充実 ○持続可能な開発のための教育（ESD、SDGsの視点） ○外部人材の活用 ○ピアティーチャーやスクールサポートスタッフ等の活用 ○防災自助パックの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者に「教育計画」を配付し、指導計画及び観点別学習評価と評定についての説明 ○学習の支援となる評価の工夫 ○評価に関する毎学期最初の説明 ○教科部会の計画的実施（年間5回） ○評価規準の確認と教科内での共通理解 ○明確な評価資料の提示 ○生徒による授業評価を2回実施（7月・12月） 	↑	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別少人数指導による個に応じた指導の充実（数学、英語） ○ピアティーチャー、図書館司書、インターン生による授業支援 ○言語活動の推進 ○水曜日放課後や夏季休業中に、「愛宕アカデミー」として地域の人材や学生ボランティアを活用した補充指導 ○家庭学習定着のための記録 ○定期テスト前に質問教室を開催 ○長期休業中の補充教室 ○長期休業明けの「復習テスト」実施 ○漢字検定、英語検定への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○JIT研修の実施・推進 ○校内研修の充実と外部講師の招聘 ○研究授業の実施と研究協議、フォローアップ ○多摩市課題別研修への参加 ○教科部会の定期的な実施（年間5回） ○「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての研修 ○ICTの効果的な活用

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
語句や漢字、表現技法を適切に用いて、文章の形態を意識しながら伝えたいことを表現できる。	目的や意図に応じた表現を用いながら、論理的な文章を書くことができる。

生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年 ・漢字を使わずに文章を書いたり、誤字や語句の意味を誤って使ったりする。ア	・毎週の漢字テストで語句の意味や漢字の成り立ちなどを解説し、反復練習をさせる。ア ・単元の初めに辞書を用いて意味調べをし、調べた語句を使った例文を作らせる。ア	・週に1回漢字テストを行う。ア ・単元ごとに実施。ア	
第2学年 ・作文において、日本語として不自然な表現が見られる。ア ・自分の意見を詳しく説明するための具体例を書けない生徒がいる。イ	・定期考査の論述問題における誤謬を個別に添削し、内容を全体で共有する。ア ・説明的な文章を読む際に、筆者の意見とその具体例の関係を意識させ、自分の表現に生かさせる。イ	・毎定期考査後に実施。ア ・単元ごとに実施。イ	
第3学年 ・要約において、筆者の主張だけでなく、自分の考えを入れたり、自分が理解したとおりに書いたりしてしまう。ア ・自分の意見を詳しく説明する具体例を書けない生徒がいる。イ	・説明的な文章の単元の際に、筆者の主張と、それに対する自分の意見を分けて考えさせながら、要約と意見文の両方を書かせる。ア ・説明的な文章を読む際に、筆者の意見とその具体例の関係を意識させ、自分の表現に生かさせる。イ	・単元ごとに実施。ア ・単元ごとに実施。イ	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について ロイロノートの提出箱を利用しながら、他者の意見と比較し、自分の考えを深めさせる。また、その際に優れているものについて、どのような点が良いのか考えさせ、自分の意見をより分かりやすく説明できるように指導する。(全学年)【重点:個別・協働】	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について ミニ黒板や授業プリントなどに目標を提示しながら、授業の見通しが立てられるようにする。目標に沿った授業を展開し、授業の振り返りの時間を設ける。(全学年)
---	---

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
【読み取る能力】社会的事象に関する知識や今までに身に付けた資料活用 の技能を基に問題文やグラフ、表などの資料を読み取る力をつけること	【書く能力】思考・判断をもとに、自分の考えを文章にして表現する力

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 問題文やグラフ、表などの読み取りを苦手とする生徒が多い。ア 授業中に得た知識を整理し、自分の言葉として文章にして表現することが難しい生徒が多い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業で問題文やグラフ、表などの資料を読み取る時間を設定し、読み取る際のポイントや感覚を養っていく。 各授業のまとめで本時の授業の課題を自分の言葉で説明し、共有する時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業 毎回の授業 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の時に比べると、資料を読み取る力や自分の考えを文章にして表現する力は身に付いてきているが、複数の資料を基にして考えたり表現したりすることには課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業での資料の読み取り、自分の言葉で本時の内容を説明する活動を継続して行い、単元末で単元の学習をレポートにして、自分の言葉でまとめる時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業、単元末 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> グラフや図表から読み取る力に課題がある。ア 自分の考えを言葉で表現したり、議論したりすることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の授業から、グラフや図表の読み取りの機会をつくり、苦手意識を無くしていく。 知識の習得にとどまらず、自分の考えを表現する時間を単元の後半に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎単元 	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>1年 タブレット端末を活用し、読み取った情報を分類・整理して話し合う。 【重点:個別】</p> <p>2年 自分の意見や調べたことをロイロノートを通して共有する。 【重点:協働】</p> <p>3年 調べたことや考えたことを基に、タブレット端末を活用して、プレゼンテーションや説明を行う。【重点:個別・協働】</p>	<p>1年 各授業の導入で本時の流れと課題の確認及び振り返りの実施。</p> <p>2年 各授業の導入で本時の流れと課題の確認及び振り返りの実施・これまでの学習との関連を考える。</p> <p>3年 各授業の導入で本時の流れと課題の確認及び振り返りの実施・毎単元のまとめの時間に振り返りレポート作成の時間を設定する。</p>

数学

数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
各単元についての基礎的な概念や原理、公式を理解するとともに、計算やグラフ、図形の読み取りをする技能を身に付けること。	数量やグラフ、図形などの性質を見だし、数学的に表現する力を身に付けること。

生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年 ・計算練習時に、正答率や計算速度に個人差が見られる。なかには、途中式を正しくつくることのできない生徒も見られる。ア ・応用的な問題において、自ら考えることや考えたことを表現することが難しい様子が見られる。イ	・基本クラスを中心に授業の初めや終わりに復習課題に取り組みさせる。また、計算練習時に毎回途中式をかくように指示を出す。 ・自ら考えて表現する課題に取り組みさせ、ヒントを少しずつ与えながら粘り強く考えさせる。	・授業ごと ・各単元の導入や、各章末ごと	
第2学年 ・計算問題において、解き方は適切であるが、途中の計算で間違えてしまう様子が見られる。ア ・初見の問題に対し、自ら考えて性質を見だしたり考えたことを表現したりすることに個人差が見られる。イ	・問題に取り組みさせる際に途中の手順を丁寧に記述させる。また、基本クラスを中心に1年次の振り返りを行う。 ・机間指導の際に習熟度に応じた声かけを行い、自力で解く習慣を身に付けさせる。	・授業ごと ・授業ごと	
第3学年 ・複数の解き方がある場合に適切な方法で計算することができない様子が見られる。ア ・計算と図形が合わさった問題など、複数の分野が複合した際に、解法を見出すことに課題が見られる。イ	・繰り返し、授業の初めや終わりに計算練習を行う。 ・問題文から重要な情報だけを読み取る活動を行う。	・授業ごと ・各章末ごと	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<ul style="list-style-type: none"> ・数と式：複数の解き方をグループで検討【重点:協働】 ・図形：図形を描写してシミュレーション【重点:個別・協働】 ・関数：グラフソフトでシミュレーション【重点:個別】 ・データの活用：アンケート機能を用いて実際にデータを収集、整理【重点:個別・協働】 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通し：①授業の導入で本時の流れと課題の提示 ②章ごとに各章の内容とのつながりを確認 ・振り返り：①定期考査ごとに学習内容と学習の様子を振り返らせる ②各項目ごとの小テストをファイリング

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けること。	・自然の事物・現象について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見いだして表現すること。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・密度や濃度などの割合の考え方や基礎的な計算に課題がある生徒が多い。ア ・主体的に課題に取り組み、理解度も高いが、論理的に表現することに課題が見られる。イ	・割合の考え方について、身近な具体例を考えさせ、計算練習の機会を設定する。 ・グループ討議で発表し合い、他の考えを聞き自分の考えと比較・修正する場を設定する。	・7月、9月 ・毎月	
第2学年	・圧力や湿度などの割合の考え方や基礎的な計算に課題がある生徒が多い。ア ・主体的に課題に取り組み、理解度も高いが、論理的に表現することに課題が見られる。イ	・割合の考え方について、身近な具体例を考えさせ、計算練習の機会を設定する。 ・グループ討議で発表し合い、他の考えを聞き自分の考えと比較・修正する場を設定する。	・9月、10月 ・単元ごと	
第3学年	・速さや加速度などの割合の考え方や基礎的な計算に課題がある生徒が多い。ア ・探究した結果を分析・解釈することや、論理的に表現することに課題が見られる。イ	・割合の考え方について、身近な具体例を考えさせ、計算練習の機会を設定する。 ・観察・実験結果をどのように分析・解釈したかを発表し合い、自分と比較する場を設定する。	・11月以降 ・単元ごと	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年 生物の観察において、記録や種の同定(スケッチ、図鑑等) 【重点:個別・協働】 2年 気象衛星による雲の画像等の活用(地球規模の大気の循環) 【重点:個別】 3年 天文シミュレーションソフトを活用した天体の運動の理解 【重点:個別】	1年 観察・実験方法の検討や結果の予想、毎時間の振り返りの実施 2年 観察・実験方法の検討や結果の予想、毎時間の振り返りの実施 3年 観察・実験方法の検討や結果の予想、毎時間の振り返りの実施

美術

美術科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
対象や事象をとらえる造形的な視点を理解し、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表現する。	自然の造形や美術作品などの造形的な良さ、表現の意図と工夫、機能と美しさの調和、美術の動きなどについて総合的に考え、主題を生み出し構想を練り美術文化に対する見方・感じ方を深める。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校でもの作りや絵画を楽しんできた生徒が多く、彫塑では造形的な視点を吸収して表現しようとしていた。ア ・鑑賞の授業への関心は高く、自分の作品の主題設定、構想を立てることに活かしたい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の制作の良い点を理解させ、基本的な技能を身に付けさせる。 ・作家の作品、生徒の作品についてのワークシートの記述を大切にしながら構想に役立てさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に実施 ・作品完成時 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・金属加工では多くの生徒が新しい素材との出会いに意欲を沸かせていた。ア ・イメージから自分の主題を生み出す段階に時間がかかる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸で味わった楽しさを平面作品につなげられるように、自己の表現の良さを理解させ、安心して制作を進められる制作手順を示す。 ・自己の表現についての記述や鑑賞における記述を元に、主題についての理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に実施 ・作品完成時 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として1・2年までの積み重ねの上により技術を高めて集中して取り組む姿勢がり、自分の表現方法を追求している。ア ・イメージから自分の主題を生み出し形にしていく難しさがあり、構想の段階に時間がかかる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品から素材や技法のもつ特性や、表現の深まりの実例を示すことで、創造的な技能の育成を図る。制作途中で生徒作品の鑑賞、相互鑑賞を取り入れる。 ・発想から構想の時間を十分に確保して、毎時間の積み重ねによる作品の変化を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に実施 ・作品完成時 	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>1年「生活をいろいろ文様」文様の調べ学習【重点:個別・協働】 2年「金属でつくる」金属を使った身近な例、工芸作品の調べ学習【重点:個別・協働】 3年「手づくりに込める思い」堆朱についての調べ学習【重点:個別・協働】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年 作ること、描く作業への集中を高める指導 2年 作る喜びを自信につなげる課題設定 3年 美術文化への理解を深める課題設定</p>
---	--

技術・家庭

技術・家庭科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
各分野についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。	
生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。	

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活から得られる情報や知識への興味・関心が希薄で、実習活動にも影響が出ている。ア 正答を求める傾向が強く、課題発見のための考察が苦手。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な具体的な例を示して、興味・関心を高め知識の習得に結びつける。また、基礎技能の習得ために実習作業の機会を確保する。 ICT機器を活用し課題とすべき問題点を整理し、課題発見へと導く。 	年間を通して実施	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 他教科と関連する基礎的知識が不足しており、実験や実習の技能の差としても表れている。ア 問題の発見から課題を設定できるが、構想や考察に結びつける力に生徒間の差が表れている。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 他教科の具体例を提示し、実験や実習を通して知識の習得に結びつける。また、個々の技能を考慮した段階的な目標設定をする。 考えた解決策や改善策を、実験や実習での体験を通して考察させる。 	年間を通して実施	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の基礎知識の偏りがあり、生徒間の技能の差が大きい。ア 問題発見や課題設定の力はあるが、表現方法の工夫や発信力が課題となっている。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 教科間で連携している事例を示し、知識の習得に結びつける。また、専門的な技能については、段階的な目標を設定する。 班活動と発表の場を充実させて経験を積み重ねて、表現方法の工夫や発信力の向上に結びつける。 	年間を通して実施	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年 情報収集・整理のツールとしての活用【重点:個別・協働】 2年 文書作成や表計算アプリの習得と活用【重点:個別】 3年 プログラムや双方向通信するための情報通信端末として活用【重点:個別・協働】	1年 ワークシートのファイリングと映像資料の活用 2年 実験や実習による体験の時間の確保と他教科との関連を明示 3年 単元と将来的な活用方法の関連を提示

音 楽

音楽科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な知識と表現の技能を伸ばす。	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、創意工夫して表現する能力を高める。

生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年 ・合唱指導において、特に男声の音域での音程が不安定で、他パートとの響きを感じる体験が少ない。ア イ ・音楽を形づくっている要素や構造と曲想を関わらせて表現する力が乏しい。イ	・繰り返しの発声練習で音程の安定を目指し、仲間と一緒に歌うことで感じられる響きの心地よさを体験する機会を多くもつ。 ・実技と楽典を結びつけ、具体的な表現方法を器楽や歌唱で体験させる。	・継続的に実施	
第2学年 ・合唱指導において、発声練習で響きのある歌声も増えたが、パートのまとまりや複雑な拍子、リズム等の理解と捉える感覚ができていない。ア イ	・多様な要素や構造をもつ音楽を歌唱や器楽等で体験させ、感覚的に音楽を捉え表現する力を伸ばし、安定した音程でのハーモニーを体験する機会を増やす。	・継続的に実施	
第3学年 ・合唱指導において、発声練習の積み重ねで音程が合ったハーモニーで楽しそうに歌っているが、高音域の響きが不安定。ア イ ・実技と理論を結びつけて表現の工夫ができる生徒とできない生徒がいる。イ	・演奏発表の機会を作り、自らの課題の提示修正や歌詞の内容と楽譜に表記されていることの関係性を捉え、どのように表現するかを考えさせて実演することによって表現法の幅を広げさせる。	・継続的に実施	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌唱練習、器楽練習において、演奏を撮ることで客観的に自分を振り返り、表現の工夫に役立てさせる。【重点:個別・協働】 鑑賞活動で作曲者の調べ学習をまとめさせる。【重点:個別】 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> 合唱指導において、活動前にパートの課題を話し合い、改善への意識をもたせ、パート練習後の合わせ練習で成果を感じさせる。 合唱指導や器楽指導において、部分部分でのハーモニーの響きを作り、心地よい響きができたとときの喜びを体感させる。
--	--

保健体育

保健体育科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方等を理解するとともに、基本的な技能を身につけることができる。	・自分の課題を発見し、合理的な解決に向けた手立てを考え、解決に向けて自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・技能名称やポイントの説明が、知識として定着していない生徒が多い。ア ・具体的に課題を捉え、授業で得た知識を活用して、解決方法を導き出すことが難しい様子がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業でホワイトボードを活用し、語句やポイントを記載し、口頭のための指導にならないようにする。繰り返し丁寧な指導を心掛ける。 ・課題の例示を行い、課題の捉え方や解決に向けた取り組み方を具体的に示していく機会を増やす。 	1年を通して	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・技能名称や歴史などの知識が定着している生徒としていない生徒との差がある。ア ・課題を捉えることができている生徒は多いが、具体的に課題解決に向けた解決策を考えるのが難しい様子がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教具を工夫し、視覚でも理解しやすいように配慮するとともに、発問の機会を増やし、生徒が反復して内容を整理できるようにする。 ・学習カードの課題解決の記述に対して、その都度フィードバックを行い、自分の考えを振り返るようにする。 	1年を通して	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・技能名称や歴史などの知識が定着している生徒が多い。技能のポイントを踏まえて練習に取り組み、技能として実行できるかが課題となる。ア ・課題の解決策を具体的に考えようという姿勢が感じられる。解決に向けて、考えたことを他者に伝える力を伸ばしていきたい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能のポイントを踏まえて、練習に取り組んでいるかどうか、自己や他者と振り返りができる場を設定する。 ・グループワークやタブレット端末の活用を増やし、課題解決に向けて、お互いに協力できる体制づくりを行う。 	1年を通して	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全単元において、タブレット端末を活用した動画の撮影から、お互いにアドバイスをし合い、協力して課題解決への取り組みができるようにする。 <p>【重点:個別・協働】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを効果的に活用し、課題や解決策等を毎授業で適切に記入させる。 ・課題に対する解決方法を個人で考えさせるだけでなく、グループや仲間と協力をして、導き出せるように授業計画を立てていく。
--	---

英語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

<p>ア 知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーション能力の4技能(聞く、読む、話す、書く)の力を身に付ける。 ・初歩的な英語を読んだり、聞いたりして書き手や話し手の意向を理解できる 	<p>イ 思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な英語を用いて自分の考えを書いたり、話したりして自分の考えを即興的に発信することができる。 ・まとまった英文を読み、内容を理解する。
--	--

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な単語を覚え、英文を書くことに課題がある。ア ・既習の単語や表現を用いて自分の考えを書くことが苦手である。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動で単語や英文を覚える活動を行い、定着させる。 ・まずは簡単な文や短文で書くことに慣れさせるための活動を行い、発信する場面を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動で日常的に実施。 ・各単元を学習する際に実施。 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な基本的な単語や英文を書くことに課題が見られた。ア ・まとまった英文の読解活動で、設問に的確に解答できない状況が見られた。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動で単語の学習を様々な方法で行うことで、自己表現力の基礎となる単語力を養う。 ・教科書の本文の読解活動をする際に課題の提示順を工夫して、読解能力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動で日常的に実施。 ・各単元の本文を取扱う授業で継続的に実施。 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・長文を与えられた時間で正しく読み取り、正確に答える。ア・イ ・自分の考えを言葉で表現したり、議論したりする。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・長文読解の速度を上げるために語彙力を増やす。 ・正確に答えるために、繰り返し副教材を使用したドリルを行う。 ・単元毎のトピックに対して自分の意見を即興的に考えて発信する場面を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間(帯活動) ・家庭学習 ・単元毎 	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>1年 自分で表現したい内容についてタブレット端末を活用して調べ、やり取りや発表することで様々な考えや表現を共有する。【重点: 個別】</p> <p>2年 タブレット端末を活用して、プレゼンテーションを行う。作成したスライドを端末で見学し合い、相互に評価させる。【重点: 協働】</p> <p>3年 タブレット端末を利用し、調べ学習を行い、その知識を使って自分で考えたことを、タブレット端末を活用して、プレゼンテーションを行う。【重点: 個別】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年 各授業の導入で本時の流れと目標を提示する。単元ごとにノートの課題(予習、授業、復習)を行うことで学びに向かう力を育成する。</p> <p>2年 各授業の導入で本時の流れと目標を提示する。そのあとで、個人で授業の目標を立てさせることで、学びに使う力を育成する。</p> <p>3年 各授業の導入で本時の流れと目標を提示。また単元毎に家庭学習として復習ノートの課題を行うことで学びに向かう力を育成する。</p>
---	---